

令和6年度（2024年度）第2回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会 会議録

日 時	令和6年(2024年)10月30日(水) 午後5時～午後7時10分
会 場	特別史跡熊本城跡 城内、桜の馬場城彩苑 多目的交流施設 多目的交流室
出席者	<p>(1) 特別史跡熊本城跡保存活用委員会 小堀委員長、小粥委員、河島委員、田中委員、野田委員、 橋本委員、服部委員、水上委員、山田委員 ※ 欠席した委員は次の4名。 池田委員、小畠委員、原山委員、森崎委員</p> <p>(2) 熊本県文化課 木村主幹、木庭参事</p> <p>(3) 事務局 ア 文化市民局 早野局長 イ 熊本城総合事務所 (ア) 濱田所長 (イ) 総務管理課 野口課長、小山主幹兼主査、國本主幹兼主査、 谷崎主幹兼主査、長尾主事 (ウ) 復旧整備課 岩佐首席審議員兼課長、渡辺副課長、戸高技術主幹兼主査、 坂口技術主幹兼主査、陣田主査、津曲熊本城災害復旧相談役</p> <p>(I) 熊本城調査研究センター 綱田所長、橋本主幹兼主査、増田文化財保護主幹兼主査、 村上参事、三好文化財保護参事、嘉村文化財保護参事、 木下文化財保護主任主事、芥川文化財保護主任主事、 矢野文化財保護主任主事、野上文化財保護主任主事</p> <p>ウ 文化財課 福居課長、赤星副課長、松永文化財保護主任主事</p> <p>工 観光政策課 光安課長</p> <p>才 誘致戦略課 下村副課長</p>
傍聴人	1人

視察（宇土櫓素屋根内）



視察（秋のくまもとお城まつり<雲上の熊本城など>）



視察後の意見交換（桜の馬場城彩苑 多目的交流施設 多目的交流室）



田中委員

保存と活用の現場を分かりやすく見学することができました。関係者の皆様ありがとうございました。
私は土木工学の観点から、どちらかといえば活用寄りですが発言させていただきます。
宇土櫓は文化財の価値を大切にしながらも活用を見据え、素屋根の網目をぎりぎりまで大きくし、外側からも見える工夫をされていました。頑張って復旧していることが風景として市民に伝わる手法に感銘を受けました。
ライトアップ（「熊本城灯りのイベント 夜火夜火（YOKAYOKA）」）については賛否両論あると思いますが、いろいろやってみることが大事だと思いました。そのうちいいライトアップの手法が出てくるのではないかと思います。好みで言えば少し派手かなと思いましたが。
石垣がきれいに見えるのが好きなので、そういう意味では雲海（特別公開「雲上の熊本城」）はすごく面白い。CGならばあり得ると思いますが、リアルに見られるのは面白いなと思いました。



山田委員	<p>宇土櫓の現場見学は非常に勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>昭和2年（1927年）や昭和29年（1954年）など段階的に行われてきた修理の痕跡が合わさって、今回の平成28年熊本地震でも、もしかしたら昭和の筋交いが効いていたのではないかといった話を現場で聞くことができたのは非常に勉強になりました。それらを市民に情報発信していただければ、宇土櫓が守られてきた歴史の発信になるのかなと思いました。</p> <p>一方で、夜の開園あるいはライトアップについては確かにきれいで、来園者の皆さんも喜んでいる姿を目の当たりにできたことは非常に良かったのですが、そもそもどういうコンセプトでライトアップをしているのか、雲海をつくっているのか。来園者を増やすための努力としては当然でしょうし、そういう努力なのでしょうけれども、熊本城の価値や歴史を伝えることにどのような効果・影響があるのか。私は歴史の勉強をしていますので、どうつながっていくのかなあと。夜のお城に行くこと自体はすごくいい体験になるなあと思う一方で、ライトアップは今日的なものですので、文化財、歴史遺産としての熊本城をライトアップや雲海で装飾することがどうつながっているのか、少し小うるさいことを言っていますが今回はまだ見えませんでした。ライトアップする中で、解説のアナウンスが入ると逆に押し付けがましい感じがするかもしれません、そこの工夫は今後考えてもいいのではないかというのが本日の率直な感想です。ありがとうございました。</p> 
------	---

服部委員	<p>宇土櫓の解体を見せていただくのは今回2回目でした。前回は5層が解体されたところでしたが、今回は下まで外されており昭和時代の修理の痕跡が見えたので、先輩達がどのように宇土櫓を残そうとしていたのかが非常によく分かりました。</p> <p>宇土櫓を国宝にしようという運動があるとも聞きました。今回の解体修理でどのような知見が得られるのか期待している方も多いと思いますので、新しい知見があれば発表していただきたいと思います。</p> <p>私は名古屋城（調査研究センター）に勤めていました。清州城の天守を名古屋城に移築したと書かれた古文書があります。清州城を名古屋城のどこに移築したのかは書かれていないので、そこから先は推測になりますが、名古屋城の築城開始は慶長15年（1610年）で、御深井丸（おふけまる）という一番端は最後まで建物が建っておらず、最後の方に移しています。清州城は名古屋城が完成するまで天守を壊すわけにはいかず残してあったはずなので、福島正則、松平、徳川が使っていた清州城の天守を最後にメモリアルとして移したのかなと思っています。</p> <p>宇土櫓は天守より後につくられているわけですよね。いつのかははっきり分からぬそうですが、そういった点で共通する部分もあるのかなと思いました。</p> <p>雲海については、文化財保護法が改正されて「活用」が重視されるようになりましたが、今まで何をしているのかはっきり分かりませんでした。今回見せていただいた「活用」とはこういうことを言っているのかと思いました。予算の出どころや法案の改正に伴う変化があれば教えてもらいたいと思います。</p> <p>雲海は非常に魅力的なもので、兵庫県の竹田城、三重県の赤木城、最近は大分県の岡城など自然の雲海を見に行っている方はとても多いらしいです。今回は人工的に見せているものなので、恐らく賛否両論あると思います。ここに来る前に元の職場の方と話したのですが、文学関連の全国大会があったそうです。熊本城がよく見えるホテルを会場にして意見交換会をしたのだが、熊本城を見に来たのかライトアップを見に来たのかどっちなのだろうと。熊本でお迎えする側としては、熊本城の自然な姿を見せたかったという意見がありましたので御紹介しておきます。</p>
------	---



小堀委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>熊本城の本質的価値をどう伝えるかということが山田委員と服部委員からの御指摘だと思いますので、その辺り引き続き検証していただければと思います。</p>
橋本委員	<p>山田委員の意見に共感します。</p> <p>新型コロナ禍以降、売り上げがなかなか回復していない飲食店がたくさんあります。原材料費等も上がってしまい、飲食店も値上げに踏み切らなければならぬ状況で、客足がなかなか伸びない。ライトアップや雲海によってまちなかに人が流れ、まちのにぎわいに結びついてくれればいいのですが。</p> <p>前回の委員会は時間が合わず欠席したのですが、前々回の委員会でお話ししたとおり、今日も入園券を購入するために並んでいる光景を目にしました。もう少しスムーズに入園できなければ、並ぶだけでくたびれてしまいます。行幸坂は歩行者が歩く幅は狭く、上りと下り1列ずつにならないといけないような状態です。行幸坂は仕方がないとしても、入園券を購入するやりとりの時間が長すぎると思います。これからもっと入園者を増やそうと考えているのであれば、入園口でもたついてなかなか中に入れないのは、非常にマイナスだと思います。</p> <p>前々回もお伝えしましたが、もっとスムーズに入園できる策を考える必要があるのではないかでしょうか。姫路城や他のお城ではもっと時間を要しているという話もありましたが、時間を要していることに着目するのではなく、スムーズに入園できる方法を考えていただきたい。他の城郭で良い事例があれば参考にしていただきたいと思います。</p>
小堀委員長	 <p>橋本委員の意見に共感します。特に南口の動線をもう少しどうにかできないものかと思います。場所の制約があるのかもしれません、1列ではなく行列を分散できないものでしょうか。繁忙期は臨時窓口を開設する、券売機を増やすといった対応があつてもいいのかなという気がします。</p>

河島委員

宇土櫓については非常に面白く拝見しました。ありがとうございました。相当解体が進んでおり、今の状態はお城が好きな方々にとって非常に興味があるのではないかと思います。解体の過程は記録していると思いますが、完成した後も宇土櫓の解体の過程を3Dなどで見せることができれば観光の一つの大きな目玉になると思います。上手にその辺りのことを考えてやっていただければ、変な展示よりも興味深く見る人が多いのではないかと思います。

雲海等についてはこんなものかと思いました。それを見に来ている人がそれなりにいるのだなというのが感想です。今日は本当にありがとうございました。



水上委員	<p>宇土櫓に関する質問に現地で答えていただき、本当に役得な体験をすることができました。</p> <p>雲海については、平日の夜にもかかわらず人がとても多かったことに驚きました。結構若い方も多く、皆さんそれぞれ写真を撮っておられ、SNSに投稿している方も見受けられましたので、集客に関してはとても役に立っているのではないかと思いました。ただ、雲海がいい感じに上がってきている瞬間を撮影したいのだが、天守閣がピンクにライトアップされていて、なかなかベストタイミングの写真が撮れないという入園者の声も聞こえてきました。</p> <p>雲海の青いライトアップは水面を表現しているという現地での説明を聞いて、そこまでこだわっているのかと感心したのですが、雲海へのこだわりと異なり、ライトアップは統一感がなく、聞けばライトアップは所管部署が違うということでした。雲海が発生する時間は統一感を持たせる取組を考えてみてはいかがかと思いました。</p> 
小堀委員長	<p>熊本城の重厚さをもっとイメージできるようなライトアップの手法もあるのではないかと思います。</p>

小粥委員	<p>本日は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。</p> <p>日本の城郭史を研究している立場で言つていいことかどうか分かりませんが、なぜ熊本城で雲海ができるのか。石垣が高く、雲海の後ろに復興天守があるという光景が描ける。それこそが熊本城の本質的な価値を表現しているのではないかと思います。そういう点を説明として加えていただいたほうが、単に観光客に集まってほしい、人を集めたいためではなく、もう一步先に行けるのではないかと思います。学術的な説明責任もあると思いますので、その辺りも足していただけるとより効果的な活用になるのではないかと感じました。</p> 
野田委員	<p>貴重な見学をさせていただきありがとうございました。</p> <p>とても私は楽しかった。恋人同士だったり、こども連れだったり、すごくいい記憶の一つになる風景であると思いました。</p> <p>歴史的な価値と現代の技術を組み合わせ、まちづくりの一つとして考えることは価値のあることだと感じました。</p> <p>ライトアップは少し私も…。これは好みです。お任せします。ありがとうございました。</p> 

小堀委員長

宇土櫓ですが、前回拝見したときは下層階にはまだ屋根があり、中が見えなかつたのですが、今回は中の構造までよく見えました。昭和2年（1927年）の修理のときに筋交（すじか）いが使われ、平成28年熊本地震前に宇土櫓内へ入れた頃は鉄骨がむき出しになっている筋交いを目にし、もう少しやりようはなかつたのかと思っていました。しかしあれがあつたので、恐らく倒壊を免れた一つの要因だったのだろうなと。また、解体して外してみるとあんなにたくさん入っているのだということが初めて分かつて驚きました。骨組みだけになると、重機や電動工具がない時代によくこれだけのものを人力でつくったものだと、改めて感動させられる景色でした。いつまで公開できるのかは分かりませんが、少しでも多くの方に見ていただければと思います。

雲海についてはホテル椿山荘東京でも実施しており、聞けば雲海を作り出す装置は同じ業者ということらしいのですが、何人かの委員からもお話しがあつたように、若者をひきつけるための仕掛けとしてはとてもいいと思います。特にナイトツーリズムは宿泊してもらうためには非常にいいやり方です。11月から12月にかけて水前寺成趣園でも夜間開園を行うというイベントが計画されているようです。このようなきっかけで若い方や家族連れの方に熊本城へ足を運んでいただき、その方たちをいかにリピーターにするか、今度は昼に来てみようよといった興味を持っていただける仕掛けづくりや発信が大事なのかなという気がしています。

雲海の演出については、下から湧き上がつてくる演出が多かつたようですが、例えば二様の石垣の上から降りてくる演出があつても面白いのではないかと思いました。



服部委員	雲海の予算について教えてください。
事務局	<p>熊本城総合事務所では観覧料を基に予算立てをしております。今のところ平成 28 年熊本地震前の 3 か年平均 166 万人までは、1 年間の入園者数が届いていない状況のため、現在はまだ赤字の状況です。赤字解消のためにいろいろな策を設け努力しているところです。</p> <p>雲海に要する費用は約 700 万円になります。今回初めてということもあり、金額的には少し安く抑えることができています。来年再来年については、御意見をいただいた内容を含め検討させていただき、できれば継続し、リピーターが増えてくるようなシステムづくりを検討していきたいと思います。</p>
山田委員	本日視察した雲海は午後 6 時開始でしたが、演出時間は 10 分でしたか。
事務局	<p>8 分です。前もって委員会で内容の説明を行ったうえで、実際に見ていただいたほうが良かったのかなとも思いますが、雲海について御説明させていただきます。</p> <p>雲海は夜間だけではなく、昼間も演出しています。朝は午前 9 時開園のため、特別見学通路を通って二様の石垣付近まで移動していただく時間を考慮し、最初だけ午前 9 時 10 分演出開始としています。昼間の演出時間は 5 分としており、音や光がないミストだけの演出にしています。以降は午前 10 時、10 時 30 分、11 時、11 時 30 分と 30 分間隔で実施しています。午後 6 時からの演出時間は 8 分としており、音と光の演出が加わります。午後 8 時 30 分の回が一日の最後の回となります。「秋のくまもとお城まつり」の期間中は毎日実施しており、11 月 4 日が最終日となります。</p> <p>ミストのノズルは 1,280 個設置しており、そこから噴射しています。水の都熊本ならではの演出として、使用する水の一部は飯田丸の井戸水を使用しています。</p>
小堀委員長	装置の設置と期間中のランニングコスト全部込みで約 700 万円ということですね。これはイニシャルのディスカウントが入っているかと思いますので、来年以降継続されるとしたらもう少し高くなろうかと思います。費用対効果、それに見合うだけの経済波及効果、入園者の増加など、なかなか精緻に検証するのは難しいかもしれませんのが、ある程度数字として把握していただき、効果を示していただければと思います。

2 前回委員会の主な意見（資料1）

事務局	（資料1 説明）
-----	----------

3 事務連絡

事務局	（資料2 「熊本城天守閣内企画展示の入れ替えと復旧シンポジウム開催について」、資料3 「こども向けパンフレットの公開について」 説明）
小堀委員長	資料3で説明があったこども向けのホームページはいい取組だと思います。閲覧数を把握して、検証していただきたいと思います。
事務局	始まったばかりでまだ数字はありませんが、そういう点も確認しながら、ニーズにこたえてやっていきたいと思います。

委員からの意見・質問

河島委員	前回からお話ししていますが、ここが日本最後の内戦の場所です。しかしながら観光の方々はそれをあまり御存知ではない。地元でも今はもう知る人が少ない。 先般神風連資料館が閉館となり、主な史料は熊本博物館に引き継がれたということを聞きました。この神風連の乱において、最初に決起して集まったのは藤崎宮で、今の藤崎台のところです。そういう関係もあって神風連の乱もお城に関係があります。熊本博物館に史料は引き継がれたので、それを上手に使っていただきたい。博物館に入れっ放しだと本当にもったいない。その辺りのことも考慮して、西南の役と神風連の乱などを観光客にもう少し知らせていただきたいと常々思っています。史料が引き継がれたのはいい機会だと思います。御検討いただきたい。
事務局	検討したいと思います。 西南戦争と神風連につきましてはもうすぐ150周年を迎えますので、検証・公開していく気運が高まっている段階だと思います。熊本城でもそういう取組は、当然試みていくことだと考えています。タイミングを計りたいと思いますので、しばらくお待ちください。

4 閉会